



# ひだまり

2026.5.28 No.5

## 《協同性編》

吉川保育所では、一人ひとりの個性を大切に、子どもたち自身が自分を大切にできる心を育み、友だちと思いを伝え認め合える・・・そんな豊かな仲間関係を築いていくため、人権を大切にする教育(人権教育)に取り組んでいます。

具体的には、障がい児(者)共生・多文化共生・男女共生、食育、いじめ・きめつけの克服、平和反戦などの視点で、子どもたちと一緒に考えていきたいと思えます。

子どもたちはたくさんの人との出会いやふれあいを通して、さまざまな文化を知り体験を重ねています。一人ひとり同じ人はいないので、ありのままの自分を見つめ、他者(違い)を認め『自分のことが大切だからみんなも大切』と感じてほしいと考えています。

そしてこれから先、さまざまな人と出会ったときに『見た目や先入観で人を判断せず、相手を受け入れられる心が育ってほしい』と願っています。

一人ひとりが大切にされる世の中をつかっていきたいですね。

そのためには、子どもたちに関わる大人(家族・地域の方・保育者)の役割が大切になります。私たち大人も、日常生活の中で何気なく言った一言が、人の心を傷つけ悲しませてしまうことがあります。また、子どもが大人の言葉をそのまま真似て友だちを傷つけてしまう場合もあります。このような身近なことから人権を大切にするということについて大人も一緒に考えていきたいと思っています。

今回のなかよしタイムでは、きりん・ぱんだ・くま組で実際にみられる子どもたちの素敵姿を職員劇にしました。子どもたちと劇を見て「どのように感じたか」「そんな風に声をかけてもらったらどんな気持ちか」を考えました。

生活やあそびを通じて「相手の立場に立って、物事を考え、行動に移せる力」も育みたい力のひとつです。今回の取り組みだけでなく、日々の生活の中でそういう場面を見かけた時にタイムリーに子どもたちに知らせていきたいと思えます。

### きりん組

みさこちゃんとみゆきちゃんがブロックの取り合いをしています。それを見ていたゆみこちゃんが「これ、かしてあげる。」と自分の使っていたブロックを泣いているみさこちゃんに貸してあげました。



#### 当日の様子

劇の中で、泣いているみさこちゃんのそばに行き、背中をさすったり「大丈夫だよ。」と優しく声をかけたりするうれしい姿が見られました。

この劇みたいに「おもちゃ貸してもらえたら、うれしいし、あったかい気持ちになるね。」と話しました。

### ぱんだ組

みさこちゃんが泣いているのを見て、みゆきちゃんが「どうしたん？」とみさこちゃんに声をかけます。みさこちゃんの話聞いて、みゆきちゃんはゆみこちゃんに「みさこちゃん泣いてるで。おもちゃ返してあげて。」と伝えにきました。



#### 当日の様子

「みゆきちゃんみたいに友だちに言ってくれたらどんな気持ちになる？」と聞くと「うれしい気持ち」

「もし泣いていても、みんなに知らんぷりされたらどんな気持ちになる？」と聞くと「いやや！」

「友だちの気持ちに気づけたらいいね。」と話しました。

### くま組

みさこちゃんが泣いていると、ゆみこちゃんとみゆきちゃんが「どうしたん？」「何があったん？」「悲しかったん？」「嫌やったん？」とみさこちゃんの気持ちに寄り添いながら、時間をかけて理由を聞いてあげていました。



#### 当日の様子

劇を見て「何かきづいたことない？」と聞くと

- ・悲しそうだった
  - ・「大丈夫？」って言ってあげてた
  - ・泣いてたら先生に教えてあげる
  - ・悲しそうにしてたら助けてあげる などの声がありました。
- 困っているときや悲しいときに声をかけてもらえたら嬉しいねと話をしました。

ほんわかあったかい気持ちが、みんなに広がるといいなあー